

【プロジェクトニュース第4号】
ハノイ医科大学との PrEP 実践を巡る意見交換会
(2019年9月11日)

9月11日、日本において PrEP（曝露前予防内服）を研究、実践している先生方と、ハノイ医科大学との間で、両国での PrEP の実践者同士でのプラクティカルな課題を話し合う意見交換会を開きました。同会には、ハノイ医科大学において PrEP を実践する Sexual Health Promotion (SHP) クリニック、その運営するチームを率いる Le Minh Giang 先生を筆頭に多くの参加を得ました。そしてプロジェクトのメインカウンターパートである国立熱帯病病院 (NHTD) から、カウンターパートや、日々 HIV/AIDS 患者と向き合う医師、看護師の皆さんにも参加いただきました。また、ハノイ医科大学の SHP クリニックに対して大きなサポートを行っている USCDC から専門家の参加者があり、議論はベトナム、日本、そして世界各国における PrEP の取り組みへと広がりを見せました。



日本での PrEP 現状について説明する水島先生

今回来て頂いた専門家の皆様からは、日本での実施状況も踏まえた PrEP の実践状況と課題について（国立国際医療研究センター（NCGM）：水島先生）、そして PrEP 実施と並行して注意すべき性感染症（NCGM：塩尻先生）に、それぞれお話を頂きました。そしてハノイ医科大学からは Giang 先生より SHP における PrEP の実践とその成果検証に向けた研究プロジェクトについて、説明と進捗が発表されました。



クリニック運営について話を伺う上村先生、塩尻先生

PrEP という手法は基本的に同じでも国によって状況は千差万別。日本でも現在はその普及に向けた取り組みが始まってそれほど間がないところですが、ベトナムでは各国ドナーの支援もあって、パイロットとしての取り組みが大きく広がりを見せています。



PrEP を実施するハノイ医科大学の SHP クリニックにて

もちろん医学的予防効果の観点での課題もありますが、特に近年 HIV 新規感染者として増加している MSM（男性同性愛者）が主要なターゲットということもあり、時に LGBT として偏見の眼差しが向けられる彼らがどうしたらクリニックに来て、どうしたら継続的



JICA-SATREPS プロジェクト
ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to-bedside system”構築と
新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



に PrEP プログラムに参加してくれるか、なども世界共通の課題です。クリニックのフレンドリーな雰囲気づくり、SNS の活用、ピアグループからの呼びかけなど、ベトナムの SHP クリニックも様々に工夫を凝らしています。

本プロジェクトでは、成果 2 (PrEP 失敗例の原因が分析される) に向けて、ハノイ医科大学の MSM コホートに対する PrEP プログラム、SHP クリニックと協力し、PrEP 参加者の血中薬剤濃度の測定や、(成功するに越したことはないわけですが) PrEP を実践したにも関わらず HIV に感染してしまういわゆる「PrEP 失敗例」についての原因研究(薬剤耐性ウイルスの分析)を行い、より効果的な PrEP プログラムに向けて寄与していこうと考えています。